



「絶対に負けられない戦いがここにある」

2月10日・11日に行われた摩周ウインターフェスタ2018での1コマ。氷上綱引きに参加した弟子屈中学校の野球部員が大勢の観客が見守る中、絶対に負けられない戦いに挑んでいました。

(関連記事21ページ)

2018.3

No.763

Public relations magazine

てしかが

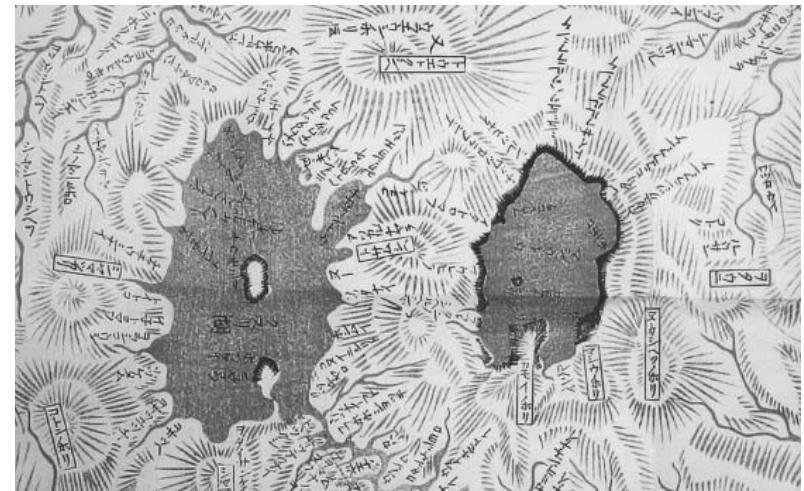
主な内容

- 協力隊通信 ②
- 地域おこし協力隊活動報告会 ③
- 3月は町税滞納整理強調月間です ④
- 第43回児童生徒読書感想文コンクール ⑥
- 臨時職員などを募集します ⑧
- 夜間納税窓口を開設 ⑩

むかしむか史 (329)

てしかが歴史写真館 てしかが歴史写真館

東西蝦夷山川地理取調図より 現在の弟子屈町域



アトサヌプリがない!?

-松浦武四郎メモリアルイヤー-

松浦武四郎が残した偉大な業績の一つに挙げられるのが、1859(安政6)年に完成させた「東西蝦夷山川地理取調図」です。

これより前、蝦夷地の輪郭は、伊能忠敬や間宮林蔵らによって測量調査され、かなり正確に描写されていました。武四郎は先人たちの記録を活用し、彼らが成し得なかった驚きの行動を果たします。空白だった内陸部の地形やアイヌ語地名を詳細に書き留めたのです。その数は約1万ヶ所。

さて、現在の弟子屈町域に目を凝らすと、アトサヌプリ(川湯硫黄山)がないことに気が付きます。武四郎さん、書き忘れたのでしょうか?

単なるうっかりミスかもしれません、もう一つの可能性も考えてみます。松浦武四郎は多くの才能にあふれた人でした。地図作成にあたっては、探検家、地理学者、画家という顔が見えます。さらに彼は、ルポルタージュ作家としての横顔を持ち合わせていました。行く先々で見た、アイヌの人たちが置かれている過酷な状況を告発し続けたのです。

アトサヌプリは実際に見ることなく、地元に住むアイヌからの聞き取りで調査を済ませたとされています。しかし、この山から採れる物質(硫黄)を焚き付けに使っていたこともメモに書き残しています。そして、この地域の調査はわずか1年前のことです。もしかしたら、和人(アイヌ以外の日本人)に硫黄の存在が知れると一攫千金を夢見る人たちがどっと押し寄せてしまうと危惧したのでは…。

ぜひ、武四郎さんに真意を尋ねてみたいものです。

てしかが郷土研究会(斎藤)

2018.3
てしかが

毎月1回発行 発行／弟子屈町 編集／まちづくり政策課 電話 482-2913 国際電話 482-2696
〒088-3292 弟子屈町中央2丁目3番1号 URL <http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>

この広報紙には再生紙を使っています